



2016.10.09 外国人受け入れに関する地域意見交換会 in 長崎<大村>

未来を創る財団主催、長崎県大村市共催、イニシアチブ **Nippon** プロジェクト第6回地域意見交換会が10月9日（日）午後、プラザ大村「市民交流プラザ」で開催された。大村市をはじめ、地域の団体、事業者、学校、日本語NPO、在留外国人など、外国人問題に関心の高い方がた20名が参加した意見交換会で、熱心な討議が行われた。



冒頭、園田市長は、市議員になる前は看護師として働いていた。当時から、外国人受け入れの問題については高い関心を持っていた。昨年11月、市長に就任。大村市の病院で、外国人看護師受け入れ第1号を目指したが、果たせなかった。現実問題として、不足している労働力を確保するということが第一

にある。一方、外国人が入ってくることに抵抗のある業界、団体がある。外国人が入ってきたことにより職を奪われるという不安があることによる。しかし、外国人が入ることで、日本人も競争意識が働く。長崎、大村がイニシアチブを取っていけるようにしたい。

来日3年のミゲル・ディエゴ氏。銀行口座の開設、住居・水道・電気・ガスの契約、電話回線やインターネット回線の契約など、一つ一つ乗り越えないといけない書類が多数あった。日本語だけでこれらの書類を読むのは困難と。複数の都市での無料の日本語教室の設置を提案。以上に加えて、長崎大学ピーター・バーニック助教は、日本人の子どもに対する教育も必要である。メディアなどを通じて、外国人に対する先入観、偏見が生じていることがある。多様性を認めるような教育が必要であると指摘。



休日の中ご出席くださった大村市他参加者の皆さまの真摯なご協力に感謝申しあげます。また、大村市企画調整課各位のご尽力に深謝申しあげます。